

綿あめが教えてくれたこと

東京都・中央大学高等学校 3年 銅住 有紗

私の祖母は商店街の一角でたばこ屋を経営しています。お客さんは多くても1日15人程度の小さなお店です。商店街は駅の目の前にあるのですが、祖母のように個人経営の小さなお店がほとんどで、人通りは多いとは言えません。いつもゆっくりとしたオルゴール風の音楽が小さな音で流れていて、静かで落ち着いた雰囲気のある商店街です。そんな商店街がとても賑やかになる日が年に1日だけあります。それは8月に行われるチビッコ祭りの日です。

チビッコ祭りはその名の通り、小さな子供たち向けのお祭りです。輪投げやスーパーボールすくいなどのアトラクションや、焼きそば、綿あめ、かき氷、ポップコーンなどの食べ物の模擬店、その他にも10以上のフリーマーケットが商店街にびっしりと並びます。お祭り当日は気を付けていないとぶつかってしまうくらいの数の親子がやってきます。そして、食べ物の良い匂いと子供たちの楽しそうな笑い声で商店街は年に一度の大盛り上がりとなります。出店は、商店街のお店ごとにアトラクションと模擬店の二つにチーム分けされます。祖母は模擬店のチームで綿あめを売ることになっていました。私は、大学生になったらアルバイトをしようと思っていて、アルバイトをする前に「働く」ということを経験できる良いチャンスだと思い、祖母の綿あめ作りを手伝うことにしました。実際に手伝いをして学んだことはたくさんありましたが、その中でも大きな学びが三つありました。

一つ目は、周りの人と協力することの大切さです。綿あめは一つ作るのに少し時間がかかるため、次のことを考えながら効率よく作業しないと、お客さんを待たせてしまうことになってしまいます。そのプレッシャーから焦ってしまうことがありました。さらに、割りばしを割る、ザラメの分量を調整するなど細かい仕事もあり、その一つ一つを1人で行うのはとても大変でした。そんな時、祖母は割りばしを割って手渡してくれたり、ザラメの分量を量っておいてくれたり

しました。祖母のおかげで、私は綿あめを作る作業に集中することができ、お客さんを暑い中、長時間待たせることなく無事やり遂げることができました。周りの人を頼り手伝ってもらおうということ、協力することがどれほど大切かということに身に染みて感じることができました。こんなことは当たり前かもしれませんが、周りの人と協力することは「働く」ということにとっては一番基本的なことなのではないかと感じました。

二つ目は、商品と引き換えにお金をもらうことがとても責任の重いことだということです。私は、最初、ただ割りばしに綿あめを巻き付けるだけの単純な作業だと思っていました。しかし、実際にやってみると、なかなか上手くいきませんでした。最初の方に来てくれたお客さんには、しばんだ小さな綿あめを渡すことになってしまいました。徐々に慣れてくると大きなふわふわの綿あめを作れるようになりましたが、最初に来てくれたお客さんに申し訳ないという気持ちになりました。自分だったら、同じ金額を払って同じ商品を買うなら、見た目が良いことに越したことはありません。これは、きっとほとんどの人が同じだと思います。商品売る側としてお金を払ってもらうことはありがたいことであり、お金の対価としての商品の価値を自分自身が左右するという責任の重いことだと実感しました。

三つ目は、お客さんが笑顔になってくれることが本当に嬉しいということです。このことは今回のお祭りに参加して一番の学びだと思います。綿あめ作りでは、手に綿あめが巻き付いてベトベトになったり、ザラメが目に入れて来たり、大変なことがたくさんありました。しかし、子供たちが綿あめを作る様子を興味津々にのぞく姿を見た時、綿あめを手渡すと、私の腰よりも背の低い子供たちが私の目を見つめてニコニコ笑顔で「ありがとう。」と言ってくれた時は、本当に嬉しかったです。頑張って作った甲斐があったと思いました。テレビで「お客さんがおいしいと言ってくれることが一番嬉しい。」と言っているのを聞いた時、テレビカメラの前で大げさに言っているだけだろうと思っていました。しかし、その言葉は大げसानんかではなかったということが分かりました。今回の手伝いはお金がもらえた訳ではなく、何かご褒美がもらえた訳でもありませんでした。それなのに、とても楽しくて、来年もまた手伝いをしたいという気持ちになりました。それは、私が心の中でお金よりも大切なものがあるという

ことに気づくことができたからではないかと思います。そして、お客さんが笑顔になってくれることがどれだけ嬉しいことかということに気づくことができたからではないかと思います。

「働く」ということを経験してみて、周りとの人間関係を築いたり、責任重大であったり、「働く」ということがどれほど大変なことかということが分かりました。改めて、毎日働いている両親はすごいなと思いました。特に母は、朝早く起きてお弁当を作ってくれたり、一日中働いた後に洗濯物を干してくれたり、家でも毎日働いています。さらに、休日にはショッピングモールで買い物をしたり、美味しいものを食べに行ったり、私を楽しませてくれます。それなのに、私はだらだらしているばかりで、家事を手伝うどころか母を楽しませることも何一つできていません。これからは、全力で家事を手伝いたいと思いました。そしてたくさん勉強して、良い成績をとって両親を喜ばせたいです。アルバイトをしてお金を稼げるようになったら、両親を旅行に連れて行って楽しませてあげたいと思います。

また、私は今まで「買いたいものを買って、やりたいことをできるくらいのお金をもらえるような仕事をしたい。お金を稼ぐことを優先して働きたい。」と考えていました。しかし、今回のお祭りの手伝いを通して考え方が変わりました。私は将来、「仕事のやりがいは何ですか？」と尋ねられたら、「お客さんが笑顔になって喜んでくれることです。」とすることができるような仕事、働き方をしたいと思うようになりました。そのために高校生の私が今できることは、自分がされて嬉しかったこと、周りの人が嬉しそうにしていたことを心の中に書き留めておくことではないかと思います。そして、大学生になりアルバイトを始めた時、社会人として働く時に、今度は心に書き留めたことを実践してお客さんに喜んでもらいたいと思います。そして、笑顔になってくれた人が、その嬉しさを忘れずに、また誰かを笑顔にするという連鎖が起きたらいいなと思います。経済を回すのがお金だけではなく、嬉しいという気持ちや笑顔であるような世界になったら私は嬉しいです。